



<教育目標>

英知の風かおり 友愛の情ふかく 精励の志つねに

平成 26 年 7 月 18 日発行

No. 5 校長 矢口 仁

## 中野中学校だより

共生社会の実現を目指して ～ 人権週間を終えて ～ 校長 矢口 仁

明日から40日間の夏休みに入ります。一人ひとりが目標をしっかりともち、規則正しく自律的な生活をしていくことを望みます。普段できない勉強、読書、運動や体験学習……等を通して、自分を大きく成長させていってください。

さて、7月10日～16日が中野中学校の人権週間でした。教育活動の重点の一つとして「人権尊重教育の推進」を掲げ、独自の人権週間を設定して様々な取り組みをしています。廊下や階段への「人権パネル」の展示、12日には道徳授業地区公開講座・人権講演会、そして道徳の時間では「差別・偏見をなくすこと」「人類愛」「ネット社会での人権侵害」等を学習しました。

今回の人権講演会は、ブラインドサッカーの選手・審判を講師としてお招きし、「障がい者と健常者が当たり前混じり合う社会」についてのお話を聞きました。

ブラインドサッカーは、視覚障がい者4人のプレーヤーと健常者であるゴールキーパー、監督、そして、ゴールの裏からプレーヤーに指示を出す「コーラー」が一つのチームです。コート大きさはフットサルと同じ、ボールは転がると音が出るようになっています。

チームで大切なのは、コーラーの役割です。プレーヤーが、後何mでゴールなのか、どのぐらいの角度があるのかを素早く指示します。ゴールの裏からの指示なので、プレーヤーから見ると左右が反対です。そこに難しさがあり、相手の立場にたつての正確でわかりやすい指示が必要になります。

このコーラーの役割と同じことが、共生社会を目指すなかでは重要になると思います。様々な年代、考え、立場の人が共存する社会で「相手の立場にたつての声かけ」ができる人が多くなれば、誰もが安心して生活できます。困っている人がいたら、その人の立場に立って何かをすることが自然にできたら、よりよい社会が実現します。



講演の中に、試合が終わり、選手と監督・コーラーが一体となって喜んでいる写真、逆に負けて皆が泣いている写真が示されました。健常者と障がい者が自然なかたちで心を通わせている場面です。「健常者と障がい者があたりまえに混じり合う社会」の実現を目指していくことの意味を深く考える貴重な時間となりました。

# 平成26年度 中野中学校 いじめ対策アクションプラン

いじめを しない させない 許さない 学校


生活指導基本方針 ↓ 【自律 共生 創造】

〈いじめに関する基本的な考え〉

- いじめは絶対に許されない。
- いじめはどの学校でも、どの子どもにも起こり得る。
- いじめられている子どもの立場に立った、親身の指導を行う。

〈いじめ対策の重点〉


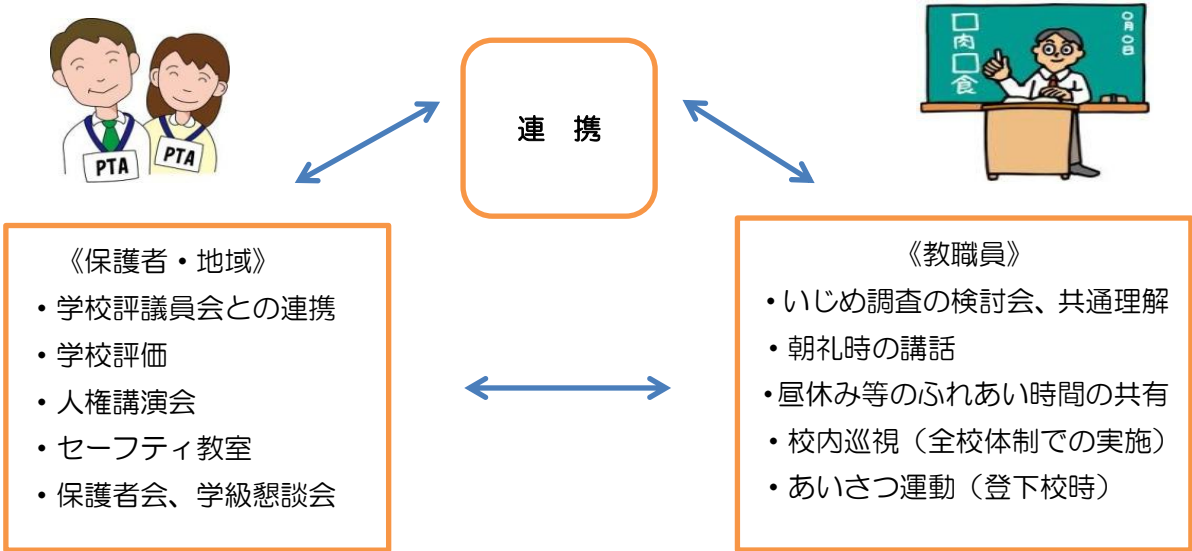
- いじめを許さない、居がいのある学級（集団）づくり
- 教育活動の充実によるいじめの未然防止
- いじめの早期発見、早期対応



◎上記の教育活動を基盤とした、いじめ対策アクションを実施

《生徒》

- アンケートの実施（教育相談、三者面談、中野区調査）
- 集団づくり（宿泊行事、百人一首大会、球技大会）
- 学級づくり（運動会、合唱コンクール）
- 人権週間（人権作文・人権メッセージ、人権ビデオ視聴、人権パネル）
- スクールカウンセラーによる個人面談
- 生徒会による「いじめ防止運動」

本校では、「いじめ防止対策推進法」に基づき、「中野中学校いじめ防止基本方針」を策定し、それをわかりやすく示した「いじめ対策アクションプラン」を定めました。人権侵害の一つであるいじめの予防・早期発見・早期対応に努めてまいります。何かお子様のこと、気になることがございましたら、早めに学校へご相談ください。(Tel 3389-1471)